

サッカー日本代表の語られ方

～新聞報道の「プレーに関する表現」に着目して～

スポーツ文化研究領域

5019A077-9 綿野 宏希

研究指導教員:リー トンプソン 教授

【目的】

本研究では、なぜ直接的に関わったことがない自国の共同体に対して夢中になったり、感情移入したり、愛着を抱いたり、帰属意識ができるのかについて論究することが目的である。また、本研究では、新聞報道の内容分析を通してのアプローチを行った。自国のネーションを意識させる言説がどのように私たちに影響するのかというナショナリズムを刷り込む効果について論究するのではなく、その自国のネーションを意識させる言説自体に焦点を当てたわけである。

【方法】

研究対象は、サッカー日本代表・サッカー日本代表選手である。本研究では、元サッカー日本代表・年齢制限のあるアンダーカテゴリーのサッカー日本代表・女子サッカー日本代表を研究対象から外した。

(1992年以前の五輪は年齢制限のないフル代表が出場しているため該当期間の五輪の記事は集めた)。また、内容がサッカー日本代表と代表選手と関連のない記事も対象から外した。

日本三大紙である読売新聞・朝日新聞・毎日新聞のデータベースを使用して、本紙だけが該当するように設定した。そして「サッカー日本代表」をキーワードとして検索し、サッカー日本代表の「プレーに関する表現」が記事に初筆された年から2020年12月31日までの期間の表現をExcelにて蒐集して、その後結果を分析した。また、プレーに関する表現の中でもステレオタイプ化された表現にも注目した。本研究では、ステレオタイプ化された表現を「日

本人の資質や国民性と結びついたプレーに関する表現」と定義し、蒐集した。

データ蒐集を行う前に読売新聞で10年分の記事で予備調査を行った。そこで抽出された表現全体を確認しながら似ている表現同士を特質ごとにまとめた。その結果、「プレーに関する表現」を5つの特質に分類することができた。以下に、その5つの特質の例を示す。

特質	プレーに関する表現
精神的特質	性格、積極性、がめつさ、自信、闘争心、粘り強さ、しぶとさ、ふてぶてしさ、など
思考的特質	判断力、展望、意思の統一、理解力、戦術理解、守備意識、など
技術的特質	個人技、スキル、技術、決定力、得点力、テクニック、キラーパス、ボールさばき、など
集団的特質	パス回し、連動性、組織力、コンビネーション、頭脳的な戦術、組織としての動き、守備、など
身体能力	高さ(身長)、体格、スピード、素早い、敏捷性、フィジカル面、体力、力強さ、運動量、など

【結果】

各新聞社の地域版・別刷・号外を除いた本紙のみのデータベースで「サッカー日本代表」をキーワードとして検索したところ読売新聞では3126件、朝日新聞では2705件、毎日新聞では2391件の記事がヒットした。そこから記事を通読したところ、サッ

カー日本代表のフル代表の記事が読売新聞では2670件、朝日新聞では2170件、毎日新聞では2101件該当した。その記事の中で、プレーに関する表現が読売新聞では510件、朝日新聞では362件、毎日新聞では414件抽出された。

各新聞で抽出されたプレーに関する表現のうちステレオタイプ化された表現が、読売新聞ではステレオタイプ73件(14%)・朝日新聞ではステレオタイプ73件(20%)・毎日新聞ではステレオタイプ36件(9%)という結果であった。この結果から、研究対象のどの新聞でもステレオタイプ化された表現が多く使用されていないことが分かった。

各新聞の年代ごとの各特質の量を分析した結果、先行研究で主張されているサッカー日本代表には「組織力がある」という「組織力」言説を含む集団的特質は、どの年代でも常に他の特質と比べて多く表象されているわけではないことが分かった。

各新聞記事の特質ごとに分類したプレーに関する表現を記者のことばとサッカー日本代表選手や監督、サッカー協会などのコメントとに分けた場合、読売新聞・朝日新聞・毎日新聞の3紙ともステレオタイプ化された表現が監督や選手、サッカー協会のコメントに1番高い割合で使用されている結果となった。この結果から、記事中の「プレーに関する表現」のうちステレオタイプ化された表現は、記者がサッカー日本代表選手や監督、日本サッカー協会などのコメントから多く引用していることが分かった。

【考察】

研究結果から、抽出されたプレーに関する表現のうちステレオタイプ化された表現が少ないことや「組織力」言説を含んだ集団的特質がどの時期でも常に多く表象されているわけではないことが分かった。しかし、記者がサッカー日本代表選手や監督、日本サッカー協会などのコメントで使用されたステレオタイプ化された表現を新聞報道で多く引用していることが分かった。

新聞報道やスポーツ実況の場面において、記者やアナウンサーのことばよりも実際に現場の経験がある監督や選手、サッカー協会などのことばの方が受け手側が納得しやすいように私は感じる。そして、現場経験がある人たちのことばにステレオタイプ化

された表現が含まれているならば、容易に私たちに刷り込まれることを想像することができる。本研究の分析結果から記者が意図的であっても、そうでないとしても日本三大紙の本紙において引用されているサッカー日本代表の選手や監督、日本サッカー協会のことばにはステレオタイプ化された表現の割合が高いことが分かった。

本研究では、「日本人らしさ」のようなステレオタイプ化された表現がコメントの部分に高い割合で引用されていることで読者にナショナリズムを刷り込む影響力が大きくなるという効果については研究していないが、このような言説が代表選手や監督、協会のコメントを通じて流通し、日本人であるというネイションが刷り込まれ自国のナショナリズムを構築していくのではないだろうか。そして、直接的に関わったことがない自国の共同体に対して夢中になったり、感情移入したり、愛着を抱いたり、帰属意識ができるのではないだろうか。